



1655

検部及之醫官之職務

15





1414  
A 311

司法  
部  
印

第二号  
寫

谷井

大正十一年四月  
候  
郵  
寄  
贈

人ヲ殺シ人ヲ毆テ及ヒ人ニ傷ケタ  
ルヲ證明スルヲ并ニ檢部醫官ノ  
職務

千八百七十二年三月二十五日同五月二日  
ニ差出シタル司法警察及ヒ行政警察ノ条  
款ニ於テ檢部重軽罪犯ノ報告ヲ受ル時ハ  
直ニ其必要ナル証明ヲ為スタノ其場哥ニ  
行ク可キヲ説明セリ各官ノ知ル所ナリ



其重軽犯罪ノ証拠ヲ明ラカニ知ルニ尤モ  
容易ナル手段ハ犯罪ノ後時ヲ移テハ中  
ニアリ何トナレハ其場ニ居合タルハ現ニ  
其景状ヲ確實ニ記憶シ且其場所モ悪業ヲ  
ナセシ跡方其終ニ顕ハレ又其ノ顛末ノ形  
状モ鮮シ易リ人ノ巷説モ亦変スルヲナク  
能ク其ノ眞実ヲ保存スレバナリ  
訴訟法ノ三十六条ヨリ四十七条迄右ノ場  
合ニ於テ検部ノ職務ヲ説明セリ今其概略

ヲ述フ左ノ如シ

検部ハ其犯罪ノ事件ニ付明ラカニ裁判ス  
ルニ確證トナル可キモノヲ一々取アツメ  
紛失セサル様ニ注意シ之ヲ裁判官ニ渡シ  
其考察ノタメニ為スコシ  
検部自ラ犯罪ノ事實ヲ証明シ得ルヲハ人  
皆之ヲ羨知シ居ル処ニテ検部タル者辱ハ  
悪事ヲ犯シタル室内ノ景状或ハ其器具ノ  
位置如何ナルカ或ハ其門戸犯人ノ出入ス



ハキ様ニナリ居シカラ証明スルヲ得ル  
ナリ  
然レニ檢部ハ犯罪ノ事實ヲ証明スル為ノ  
醫官ヲ用フルニ必要ナルヲ數多アリ  
殺死セラレタル者登時於ホ死相、顯ハレ  
ナルヲアリ故ニ其真ニ死レタルヤ否ヲ見  
極ムルヲ斷要キテ独リ医官ニ非ナレハ其  
見極ヲ為スナ能ハス

四十四条  
見合

其死状ニヨリテハ人ニ殺サレタルカ又ハ  
誤テ死シタルカ又自殺マシカラ判断ス可  
キ場合モ亦數多ナリ  
故ニ醫官ハ死躰検査ノ調書ヲ作り其死セ  
シノ原因及ヒ其時刻又ハ其殺セシ器具  
又ハ其者害ヲ受テヨリ幾分時間命ヲ保テ  
居タルカ又ハ如何ナル場合ニ於テ如何ナ  
ル不意ノ事アリテカ其他都テノ景状ヲ巨  
細ニ其調書ニ於テ指示ス可シ即チ其景状



トハ甲真ノ罪人ヲ見出ス  
① 罪ノ輕重如何ナルカ  
② 余人疑ヲ容ルト雖モ其惡事ハ之レナキ  
③ 余人疑ヲ容レズト雖モ全惡事ニテナセシテ都テ是等ノ証拠ニ立ツ可キ景状ヲ云

④ タトヘハ人アリ殺人ノ事件發露セシキ時  
⑤ 前ニ其家ヨリ甲一人ノ出ルヲ見ル時  
⑥ 却テハ犯罪ノ疑ヲ此甲ノ人ニ歸ス  
⑦ 又人アリ四時間前ニ其家ニ乙一人ノ

入ルヲ見ル時  
⑧ 此乙ノ人ヲ罪ナキト見做ス  
⑨ 然レモ警官之ヲ驗シ其死躰四時間前ニ絶命セシテノ証拠ヲ立ル時  
⑩ 其疑ヲ乙ノ上ニ帰スヘシ

⑪ タトヘハ爰ニ死躰アリ其躰争鬪ノ証蹟ヲ荷ヒ及ヒ人ヲ敵ツ可キ武器ヲ持スル時  
⑫ 其殺サレタル人ヨリ争鬪ヲ引起シタルヲノニ殺サレタルヲ考ヘ得可シ故ニ之ヲ殺シタルノ疑ニハ減スル



アル可シ

若シ醫官之ヲ驗シ死躰ハ睡卧中ニ殺サ  
レタルコトヲ証スル時ハ確實其他人ハ為  
メニ殺サレタルコトヲ考ヘ知り且之ヲ殺  
シタルノ疑ヒ前項ヨリ太重キノ景状アリ

①クトヘハ爰ニ縊ヒタルモノアリ其足  
地ニツキ死シ居タリ然ル時ハ行殺人アリ  
其故意ヲ以テ此事ヲナシタルコトヲ考

フ可シ如何トナレハ足地ニツキ可キ程  
ナラハ其命絶ントスル時ニ苦痛ニ堪ヘ  
ス必ス自ラ其足ヲ伸ハシ身ヲ高ク為ス  
ルキニ其事ナキハ自縊ノ確証トナスニ  
至ラサレハナリ然レハ醫官之ヲ驗シ其  
其命絶ントスル時其身ヲ高クナレトス  
レハ最早其カナクシテ死ニ至リ且コトヲ  
証スル時ハ其自ラ縊レタルコトヲ以テ他  
人ノ殺シタルコトニ非ス



①トトヘハ自分ノ所為ニテ縊レシタル  
様ニモテハ懸リ死シタル者アリ然レ  
医官之ヲ驗シ其縊レ前既ニ縛リ殺サ  
レ或ハ致殺サレタルニ相違ナキヲ証  
スル時ハ之ヲ殺シタルモノ故意之ヲ為  
シタルヲ知リ得可レ  
爰ニ記スル処ノ如キ証拠トナル可キ数  
多ノ類例ハ之ヲ増加スルヲ實ニ其限り  
ナカルヘシ

又爰ニ記スル処ノ如キ場合ハ医官虽レ  
真ヨリ其死屍ノ十分綿密ナル調書ヲナ  
レタルト云フ可ラス必ス痲査ニ助ケ  
ヲ取ラサルヲ得ス故ニ医官ハ先ツ其大  
略ノ調書ヲ差出し其後ニ傷跡査査ノ上  
委細ノ調書ヲ差出ス可シ  
醫官ノ關係スルヲハ痲部其場所査査ノ  
時ノミニ限ル可カラズ即チ犯者捕ハレ  
タル時其罪犯果シテ殺サレタル者ニテ



勝ハキ必要ナルカアルカ又其罪犯劇致  
、証蹟ヲ為ツカヲ(見合例ヲ)知ル為ノニ之ヲ  
呼出スヲ得可シ  
医官ノ立會ナケレハ殆ト知り得難キ人  
殺ノ種類アリ毒殺是ナリ其死シタル当  
今已ニ學術ニテ其毒ノ種類及ヒ分量ヲ  
死者ノ胃ノ臟ニ於テ見出スヲ得ル即  
チ其毒ノ種類何物分量何程ニテ何ノ時  
間ニ行フタルカ医官ニ非ナレハ之ヲ証

明スルヲ能ハズ  
醫官ノ証明ス可キ事件ハタゞ殺人ノ時ニ  
限ル可カラス強姦ノ場合ニ於テモ亦其立  
會ヲ要ス醫官ハ之ヲ検シテ果シテ其姦ヲ  
成シ遂ケタルカ又ハ只試ミレノミカ或ハ  
其強姦シタル者カラ以テシタルカ又ハ欺  
偽ヲ以テシタルカ又或ハ此ノ人其身軀ノ  
景状ニヨツテ其反人タルカヲ考ヘ得テ証  
明スルヲ得可シ



流産、場合ニ於テハ、医官ニテ、騷レ、自然ノ  
流産カ、又ハ、悪事ノ、手立ノ、助ケニ付テ、流  
産カヲ、証明ス可シ  
赤子殺シノ、場合ニ於テハ、其母通常其子ノ  
死シテ生レタル事ヲ、口実ト為ス、然レ、医官  
之ヲ、騷レ、其子果シテ胎死ナルカ、又ハ、生レ  
タル、後殺サレタルカヲ、証明ス可シ  
人ヲ、致傷スル、場合ニ於テハ、医官ニ、高議ス  
ハキ、罪犯疑念ノ、カド、数多アル、左ノ、如シ

其ノ、傷如何ナル、景状カ、傷ケレ、者、傷ケレ、後  
更ニ、其人ヲ、死ニ、至ラシム、可キ、氣付ナク、ト  
モ、其、傷ノ、為メ、遂ニ、死ニ、至リシカ、又、疵ノ、タ  
ノ、ニ、其人ヲ、レ、テ、多少ノ、時間、廢業セシム、ハ  
キカ、又、疵ノ、タメニ、生涯ノ、間、療人トナル、ハ  
キカ、等ナリ  
刑事ニ、於テ、悪事ヲ、証明ヤ、ントスル、タメ、裁  
判官ヨリ、医官ニ、問フ、ハ、キ、事件右ノ、外、於、ホ  
数フ、可カラス



併シナカラ医官ノ職掌右ニ記シタルケ条  
ニテ之ヲ尽シタリトセス罪犯アル時其罪  
犯ノ景状或ハ其重大ナル事件ニテ其罪状  
ハ確証ヲ得ルト雖モ亦罪人ノ其責ニ任ス  
可キ輕重度量医官ノ証ニヨツテ之ヲ吟味  
ス可キヲアリ

法律上ニ於テ十六歳以下者へ全ク無意ニ  
シテ為レタルモノハ之ヲ免ス併シ其事件  
果シテ無意ニ出タルカ否ヲ知ルニハ裁判

上ヨリムシ口医術上ニ関係スルヲ最モ大  
ナリトス

法律上ニ於テ精神錯乱ニテ為レタル罪ハ  
免ス可シ併シ医官ノ其精神錯乱ナルカ  
否ヲ証明シ本人其罪科ヲ適シ之ヲ  
口実ト為スヲ能ク証明ス可シ

行刑場ニ至ルマテ於ホ医官ノ関係アリ  
婦女ノ懐妊シタル時ハ刑セザルナリ  
行刑場ニテ若婦女ノ懐妊アル事ヲ陳スル

刑法



時ハ医官ヲ呼シテ其実否ヲ驗シ証明マシ  
ムヘシ  
右数項ニ於テハ刑事ニ關係シタル医官ノ  
職掌ヲ陳述スルノミ民事ニ關係スル事ニ  
於テハ更ニ之ヲ述ヘサレバ其誤ヲ尽レタ  
リトセス  
民法上ニテ医官ノ務ハ其例数件アリ各官  
ノ既ニ知ル所ナリ  
民法ノ第三十四条ニ於テハ医官民生官更

ノ簿冊ニ登記スル前ニ其遺産ノ子死シタ  
ルヤヲ陳述スルノ是亦各官ノ知ル所ナリ  
第三十三條ニ於テハ夫其ノ妻始テ懐妊  
ノ時已レノ身軀虚弱ナリシヲ述ヘテ我  
子ニ非ラサルヲ申述ル時医官其真偽ヲ  
驗シ証明スルヲ要ス  
第三十四條ニ於テハ其子生存シ能ハサ  
ル時其子果シテ生存シ得サルカ否ヲ証ス  
ルハ亦医官非サレハ解ハス



第百八十条ニ於テ男女ノ區別ナキ時ハ其  
婚姻ヲ去リ保ツテ得可カラス人其男女  
ノ區別ヲ見分ルテハ容易ナレ共若シ其ノ  
骨格不具ナル時ハ裁判所ニ於テ多ク医官  
ヲ集メ高議ス可キナリ  
法律上ニ於テ精神錯乱或ハ痴愚ナル故ヲ  
以テ不適當ナリトスル場合数多アリ然レ  
其信疑ハ医官ヨリ判ルハ真能ク之ヲ証明  
スルヲ能ハス

右ニ記スル所ヲ約シテ之ヲ言ヘハ第百三  
百八十二条ニ記スル如ク其害ヲ蒙リタル  
者其償ヲ得ンテ願出ルヲ許ス若シ其害  
身軀ニ係ル時ハ其害ノ輕重ヲ証シ其償ノ  
高ヲ証スルテ医官ヲ待テ之ヲ定ム可シ  
世迄申述ル所ニテ裁判上医官ノ所要ナル  
職掌ハ既ニ分明セリ後ホ以下ニ記スル所  
ノ割合ヲ以テ其事實ノ委細ヲ知ルニ足ル  
可シ



千八百六十九年中ニ一ニ向テ抗抵シ  
千六百五十八人ノ罪犯中ニテ四百八十一  
人ハ無罪ニテ放免ス千六百六十六人ハ其罪  
実ヲ明カニスル為メ医官ノ立會ヲ要シタ  
ル者ナリ但シ輕罪ハ此中ニ算入セス  
曰年中ニ二等裁判所ノ民事取扱所ニテ三  
百六十六事件ハ皆医官ノ立會ヲ要シタル  
モノナリ但シ一等裁判所ハ此中ニ算入セ  
ズ

十年間ニテ毒殺ニテ医官ノ立會ヲ要シタ  
ルモノ六百十七件強姦一萬鶏姦三百二縊  
死二百六十二息ヲ詰メ殺シ又殺ノ殺シタ  
ルモノ六十流産七百四十七子殺シ三千狂  
顛癡呆ノ此等ノ罪ヲ犯シタルモノハ其數  
算フ可ラス  
前ニ記シタル医官ノ務ニ於テ之ヲ尽シタ  
リトセズ医官ノ職ハ能ク其藥性ヲ弁シ其  
學業經驗年ヲ経テ後如テ其ノ術ノ精微ヲ



